

事業番号2：温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」による地球環境観測事業

評価者のコメント（コメントシートに記載されたコメント）

- 国際協力を推進しつつ、コスト低減に配慮し、観測精度向上に努めて欲しい。
- 世界貢献の度合い、日本の役割を明確にして、「いぶき」のあり方を考えるべき。
コストに見合うだけの世界貢献ができているのか、その意義を明確に示すべき。
2号機で最大限の効果をあげるためにも、現行機をどのように使うのかの視点が必要。地上データの観測数と精度の関係でコスト効率性をあげる方策はないのか。
「いぶき」のプロジェクト自体の全体評価とともに、できる限り使うのかどうかをまず考えるべき。
成果指標が示されていないため、何をもって成功であるのかが見えない。
- 国際貢献という意味から、当該事業の必要性は理解できる。
検証データの精度もあがってきていることや検証地点に偏りがあることから、検証地点の見直し等を行い、経費の削減を検討する必要がある。将来的には、米国衛星との連携を図り、例えば検証地点を減少させるなど、経費の削減に努める必要がある。
- 意義は認められる。しかし、コスト削減する仕組みがまったく作り込まれておらず、今後の対策が必要である。参加者確認公募の請負契約・随意契約なので、原価監査、シェアードラインの導入を検討するなど、抜本的に契約形態を見直すべし。
- 本事業の目的は「いぶきデータ」の補正とのもので明確である。しかし、本事業及びいぶきの存在そのものの成果が曖昧である。（①データ不確実性の除去がどのような効果をもたらしているのか。②いぶきから得られたデータの活用、政策立案への貢献等が不明確である。）
よって、どのように活用されることを計画し、それに対して実績がそれを達成したのかどうか、明確にする必要がある。次の衛星の打上げ事業においては、これらを明確にすべきである。
事業の効率化を徹底するため、以下について契約内容を見直すべき。
 - ・外注契約は随意契約が多いが、理由が適切ではない。
 - ・「雑役務費」のデータ取得量は人件費が入っている。
- データ精度向上がどのように政策立案に結びついているか、その成果と必要性についての説明をより明確にすべき。将来の事業展開に当たっても、日米の協力をいかに最適化するか、コスト面に配慮しつつ、目的を達成できるよう考慮すべき。
国環研への委託業務の内容についても毎年見直しを図り、予算の効率的使用に努めるべき。

評価結果

事業内容の一部改善

(事業全体の抜本的改善：3人、事業内容の一部改善：2人、現状通り：1人)

とりまとめコメント

事業自体の意義は認めるものの、国際貢献、費用対効果の説明を十分行うべきである。また、随意契約等の契約方法についても見直す必要がある。これらを踏まえ、事業内容の一部改善とする。